

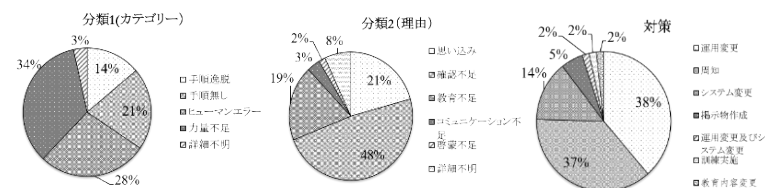
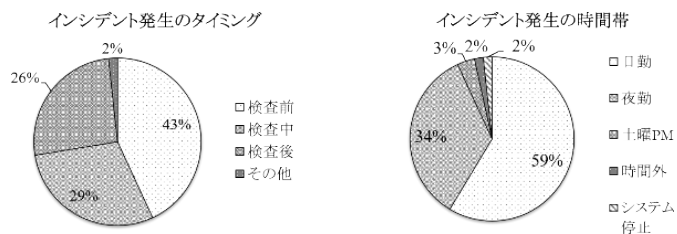
化学免疫検査室における不適合事例の傾向とパターン分析

◎森家 直樹¹⁾、齊藤 翠¹⁾、星 雅人²⁾
藤田医科大学病院¹⁾、藤田医科大学²⁾

【はじめに】藤田医科大学病院は2017年にISO15189:2012の認定を取得し、その後病理部の拡大を経て2021年に一度目の更新を完了した。以前、当検査部2020年の不適合事例の傾向及びパターン分析を報告しており、今回は化学免疫検査室についての分析を行ったのでその報告をする。

【対象及び方法】2018年から2023年に化学免疫検査室よりマネジメントレビューへインプットされた92件を対象とした。不適合事例や再発事例に対し、発生したタイミング、時間帯、カテゴリー及び理由別による分類、対策の調査を行い、傾向及びパターンの分析を行う。

【結果】全92件の内、インシデント59件の結果示す。



【結語】化学免疫検査室での不適合事例の傾向及びパターンの分析を行うことで、検査室特有の不適合事例の発生ポイントがより鮮明になった。また経年的に事例を分析することで再発する事例に関しては、是正や教育を重点的に行うべきことが明確となった。不適合事例の傾向やパターンを把握しておくことで、業務の状況に応じて何を優先すべきなのかの判断が適格になり、またリスクマネジメントに繋がるものと考えられる。

連絡先 0562-93-2305